

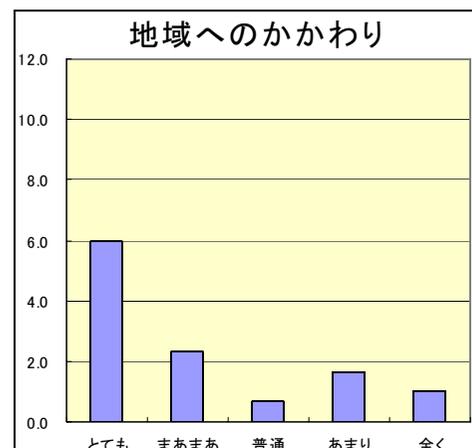
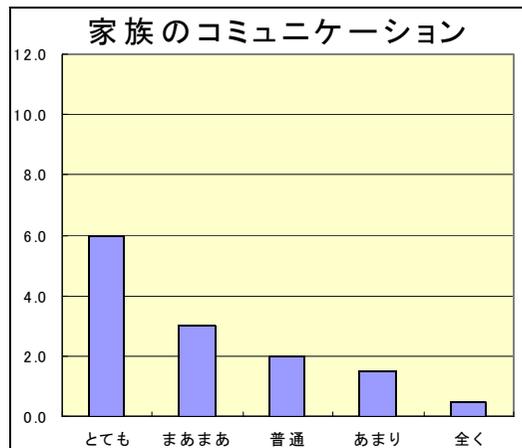
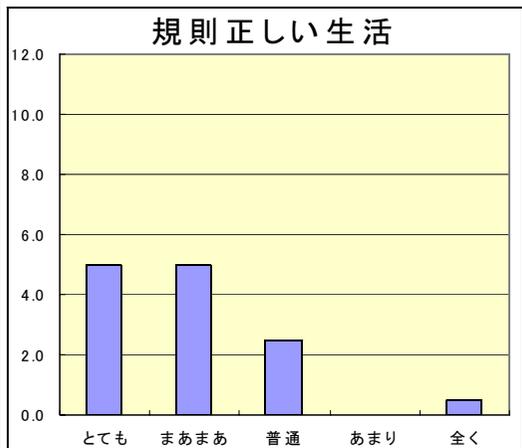
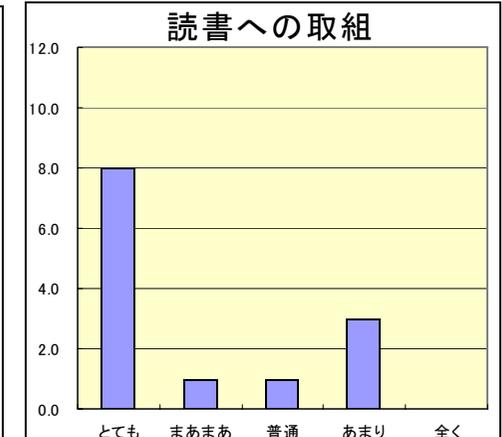
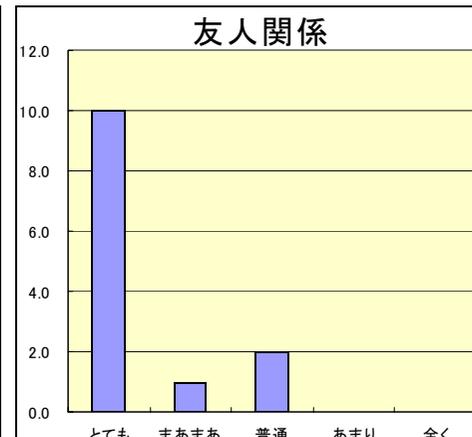
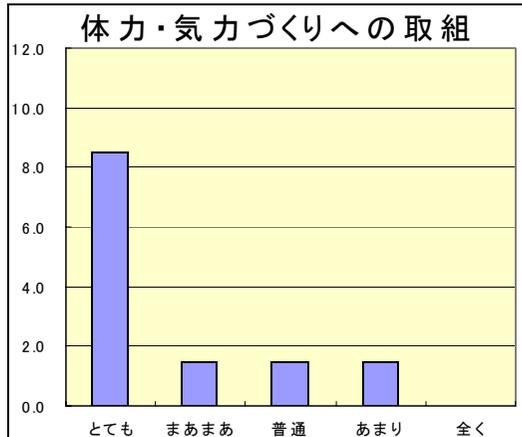
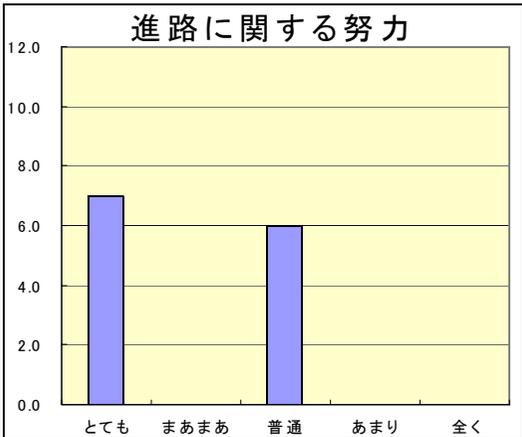
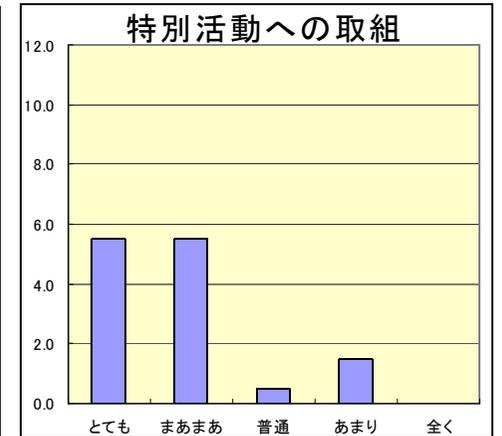
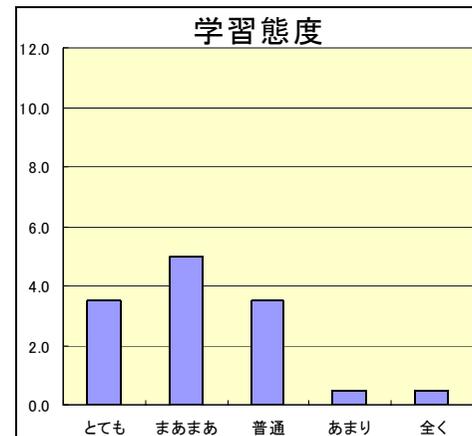
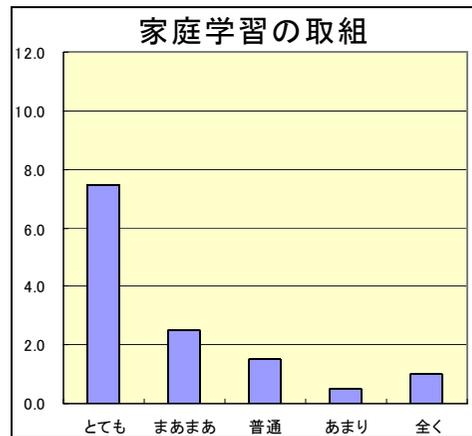
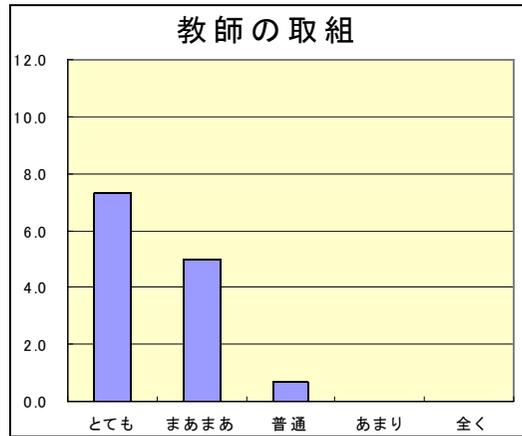
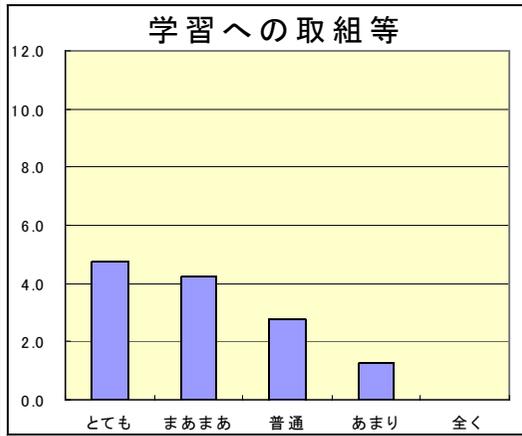
生徒による評価 結果と考察・対応

○ 学習への取組や授業中、自分の考えを積極的に発表することが低い。自分の考えに自信をもてない生徒が多いと考えられる。生徒の関心を高めたり、個に応じた対応を充実させたりする必要がある。

- 教師の取組に対する評価も高い。本校教諭の取組が生徒に適していると考えられる。
- 家庭学習は個人差が大きい。個に応じた課題を考慮していくことが大切である。
- 特別活動への取組が5割以下である。時間が取れないことややるべきことが明確でないことが考えられる。活動時間の確保や仕事内容の明確化等を図っていく。
- 2極化している。実態やニーズに応じた内容を探る必要がある。

○ 体力づくり等は個人差が大きい。運動の好き嫌いが作用していると考えられる。苦手な生徒にも楽しみながら力のつく運動を取り入れる必要がある。

- 他人への優しさについては、高い評価となっている。しかし、友達に優しくできていないと考える生徒も見られることから、道徳の授業や学校生活内での指導を充実する必要がある。
- 友達づきあいに関する評価は高い。少人数の中で人間関係がうまくいっていると言える。
- 読書は2極化している。苦手な生徒が本に目を向けられるように、流行の本やページの少ない本等を積極的に紹介することが必要である。
- 規則正しい生活があまりできていないと言える。部活動・家庭学習で時間が取れないことが原因と考えられる。自分なりの起床・就寝時刻を決めさせるような取組を行う。



- 家族とのコミュニケーションについては、「とてもそうである」が半数程度である。思春期であることや、部活動・家庭学習で時間が取れないことが想定される。食事を一緒にするやノーテレビデーを設定してもらう必要がある。
- 地域へのかかわりは高いと言える。鹿島の地域に根ざした活動があり、それに参加することへの意義を感じていると考えられる。

◎ 調査方法：31の質問項目について自分がどの程度取り組んでいるかを5つの選択肢から、一つ選択させた。そして、質問項目を13のカテゴリーに分類した。その上で13人の結果の平均値を算出した。